

平成27年度
一般1期入学試験問題

国語
(教養学部)

2月3日(11:10~12:10)

注意事項

1. 問題用紙は、試験監督者の指示があるまで開いてはいけません。
2. 問題用紙と解答用紙(マークシート)は別になっています。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - ① 氏名欄 氏名及びフリガナを記入しなさい。
 - ② 受験番号欄 受験番号(数字及び英字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
 - ③ 試験種別欄 一般1期にマークしなさい。
 - ④ 教科・科目欄 国語にマークしなさい。
4. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解答 番号	解 答 欄									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

5. 問題用紙は、試験終了後持ち帰りなさい。

□ 1 次の文章を読んで、後の問い（問1～8）に答えよ。（それぞれの形式段落の初めの、四角で囲んだ漢数字は、段落番号を示している。）

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することが
出来ませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することが
出来ませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することが
出来ませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することが
出来ませんのでご了承願います。

(注) 1 ベネディクトⅡアメリカの女性人類学者。文化とパーソナリティーの研究ですぐれた業績を上げ、日本文化を分析した『菊と刀』は大きな注目をひいた。

2 紐帯Ⅱ「ひも」と「おび」。物と物や、人と人などの二つのものを結びつける役割を担う大事なもの。特に、社会の構成員を結びつけている血縁・地縁・利害関係などのさまざまな条件。

3 格律Ⅱ行為の規則や論理の原則。また、それらを簡潔に言い表したもの。公理。

4 擬制Ⅱ実質は異なるものを同一のものに見なし、同一の法律的效果を与えること。(たとえば、失踪宣告を受けた者を死亡と見なしたり、窃盗罪において電気を財物と見なしたりするなど。)

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(ア) ヤツカイ

1

- ① 浅草^{あさくさ}カイワイをぶらつく
 ② 故国の墓所にカイソウする
 ③ 免許カイデンの腕前
 ④ いらぬおセツカイを焼く

(イ) ホウキ

2

- ① 博覧キョウキな郷土史家
 ② 控訴がキキヤクされる
 ③ 新聞は社会のコウキである
 ④ キシを鮮明にする

(ウ)

リンカク

3

- ① イチリン挿しの花びん
 ② ドアの呼びリンを鳴らす
 ③ 清談にふけたチクリンの七賢
 ④ リンモウの狂いもない

(エ)

シヨウヘキ

4

- ① 祇園^{ぎおん}シヨウジャの鐘の声
 ② バンシヨウを排して出席する
 ③ 対立する両国のカンシヨウ地帯
 ④ シュンシヨウ一刻^{あたい}値千金

(オ)

シテキ

5

- ① コウテキシユを迎えて奮い立つ
 ② お酒はイッテキも飲めない下戸^{げこ}
 ③ 答申のテキヨウに目を通す
 ④ テキセイな評価を下す

問2 空欄 a 〽 e に当てはまる語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 6

- | | | | |
|---|--------------|------------------------------------|---------|
| ① | a 義理と人情の板ばさみ | b あの男は義理人情を解する男だ | c 義理が悪い |
| | d 義理の風がはいりこむ | e 人情に国境なし | |
| ② | a 義理と人情の板ばさみ | b 義理と人情を秤 <small>はかり</small> にかけりや | c 義理を欠く |
| | d 義理がすたれてしまう | e 人情に国境なし | |
| ③ | a 義理と人情のしがらみ | b あの男は義理人情を解する男だ | c 義理が悪い |
| | d 義理がすたれてしまう | e 人の情 <small>じょう</small> にほだされる | |
| ④ | a 義理と人情のしがらみ | b 義理と人情を秤にかけりや | c 義理を欠く |
| | d 義理の風がはいりこむ | e 人の情にほだされる | |

問3 傍線部A「この人間関係からは、親子や夫婦や恋人同士のような特定の親密な関係は除かれねばならない」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① 親子や夫婦や恋人同士のような特定の親密な関係は、すでに内的規範が成立している情的でパーソナルな人間関係だから。
- ② 親子や夫婦や恋人同士のような特定の親密な関係では、心理的に彼ひがの隔たりをもたないことにまずは重きを置いているから。
- ③ 親子や夫婦や恋人同士のような特定の親密な関係に、義理などという心情道徳がしのび込むことはとうていありえないから。
- ④ 親子や夫婦や恋人同士のような特定の親密な関係も、畢竟ひっきょうあらがいがたい制裁力や拘束力をもつ社会的規範や習俗そのものだから。

問4 傍線部B「おたがいに顔を知っている狭いサークル（共同体）」とあるが、そのサークル内における「義理」の具体的な

現れの例として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

8

- ① 赤ん坊の危険防止のためにと友人から譲り受けて使わせてもらったベビー・サークルを、今度は、初めて赤ん坊を授かった別の友人に譲ってあげた。
- ② つまるところは虚礼に過ぎないと思いつながらも、ともに盆暮れの挨拶を欠かさずに来たことが、あいつとの二十年以上もの息の長い付き合いとなったのだろう。
- ③ 『ぐりとぐら』は国民的な絵本として世代を超えて愛され続けてきたとかいうらしいが、手にしたことさえなかったので小学生の姪から借りて読んでみた。
- ④ 臓器移植について深い関心をもつ彼だったので、その急逝後、本人の意思が不明だったにもかかわらず、臓器提供を遺族は二つ返事で承認した。

問5 傍線部C「だれかへの義理、何物かへの義理であつて、そうした関係を超えた普遍的格律ではない」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

9

- ① 義理は、「冷たい義理」と「温かい義理」の両面性をもち、日常生活で機能している義理のおおよそは、この二つのタイプのいずれかの領域に深く浸透しているということ。
- ② 義理は、個別主義的性格を持った社会や文化を背景にして出現したものであり、他者との関係を維持し強化しようとするときの規範的側面であるということ。
- ③ 義理は、常識的に考えれば、「義務」であり、公的世界にかかわる外的規範であるが、西欧社会でいうところの「義務」と完全に一致するものではないということ。
- ④ 義理は、人類に普遍的な社会現象が一つの習俗として、ある一つの「閉鎖的な共同体」の中にあつてそのサークルの生活規範として確立したものであるということ。

問6 傍線部D「擬制された共感関係」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

10

- ① 他者との関係を維持するためには、「義理」における西欧的な義務的性格までも進んで取り込むことで、外的拘束力がさらに強化された関係。
- ② 他者との関係を維持するためには、「冷たい義理」と「温かい義理」を同一のものともみなすことで、自己の欲望や感情の自然な働きを厳しく禁じた関係。
- ③ 「冷たい義理」のさ中にありながら、うわべは「温かい義理」に見せかけてでも、他者との関係の維持を第一義に置こうとする関係。
- ④ もともと曖昧な自己矛盾的性格をもっている「義理」の世界で、冷たいとか温かいとかの枠を超えて、他者との関係の維持を最優先した関係。

問7 本文を三つの意味段落に分けるとすれば、第二・三段落はそれぞれどこから始まるか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

11

- ① 第二段落は三から、第三段落は九から、それぞれ始まる。
- ② 第二段落は三から、第三段落は十から、それぞれ始まる。
- ③ 第二段落は七から、第三段落は十三から、それぞれ始まる。
- ④ 第二段落は七から、第三段落は十四から、それぞれ始まる。

問8 本文の内容に合致するものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

12

- ① 「義理と人情」は西欧社会には見られない日本固有のものであり、それを西欧的な意味での「公と私」に一般化したアプローチには必ずしも意味が見いだせない。
- ② 他者との関係において成立する社会的規範ともいうべき「義理」は、それぞれのケースにおいて冷たくも温かくもなり、その現れ方に「人情」は大きく制御されざるをえない。
- ③ どんなに深い血縁や愛情などで結ばれている、情的でパーソナルな人間関係においても、「不本意ながらもそれに従わねばならない」ケースが想定できないわけではない。
- ④ 好意を受けた者が好意を与えた者に返礼をするのは日本では当為であり、それに相反する者がいると共同体の精神的紐帯は脆弱ちゆうたいぜいじやくになりかねない。

II 次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えよ。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することが
出来ませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することが出来ませんのでご了承承願います。

(いしかわよしこ)
『石川美子』「旅のエクリチュール」「浦島太郎と旅文学」による)

(注) 1 浦島子⇨浦島の子。『日本書紀』『風土記』『万葉集』『御伽草子』などに見える呼び名。

2 巖谷小波⇨明治時代の児童文学者。

3 そのような場所⇨中略箇所の前段落で、「竜宮城とは四つの季節が同時に存在する」「不思議な場所」で、「その不思議さとは超時間的な性質にかかわるもので」「異境では、時間は地上とはまったく異なるふう流れる」と説明されている。

4 浦島太郎がすごした期間⇨中略箇所の前々段落で、浦島太郎が竜宮城ですごした期間を、『風土記』『万葉集』『御伽草子』では三年間、巖谷小波によると、わずか二、三日のことだったと記述されている。

5 『失われた時を求めて』⇨プルーストが執筆した大作。人間の意識の流れを綿密に追うことによって、小説の概念を一新し、二十世紀の新しい文学の出発点となった。

6 もといた家も村もなく、路に行きあう人びとは、顔も知らない者ばかり⇨文部省唱歌「浦島太郎」の歌詞による。

7 『東方見聞録』⇨イタリアのマルコ・ポーロのアジア大陸旅行記。ヨーロッパにおけるアジアへの関心を高めた。

8 空想旅行小説⇨ともにイギリスの小説家、デフォー『ロビンソン・クルーソー』、スウィフト『ガリバー旅行記』などをさす。

9 シャトーブリアン⇨ロマン主義の先駆者。不安と倦怠けんたいに満ちた世紀病的感性を詩的文体で表現した。

10 スタンダール⇨虚飾のない簡潔な文体で、心理分析・社会・政治を描き、フランスの近代小説を切り拓いた。

11 心細さに / 12 みやげにもらった玉手箱 / 13 たちまち太郎はおじいさん⇨それぞれ、文部省唱歌「浦島太郎」の歌詞による。

14 モンテーニュ⇨『エッセー(随想録)』により、懐疑主義的方法を基盤に、自己省察から、普遍的人間性を追求した思想家。

問1 傍線部(ア)～(オ)の語と同じ意味・用法のものとして最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(ア) なんともし

13

- ① つまづいて転んだけどなんともしない。
- ② その件については、まだなんともし言えない。
- ③ 非難されてもなんともし思わない。
- ④ あいつを見ていると、なんともし歯がゆい限りだ。

(イ) 光し

14

- ① 不慮の事故に遭って光しを失う。
- ② 親の光しをかさに着て威張りくさる。
- ③ 「平和の光し」とはいつても言葉だけのもの。
- ④ 鮎屋すしやでよく食べるコハダやサバなどの光しもの。

(ウ) 見透かして

15

- ① ガラス越しに見透かす外の夏景色。
- ② うなぞこが見透かせるほどのマリンブルーの海。
- ③ 悪い奴だ、人の足もとを見透かしやがって。
- ④ 胸にしまった思いを見透かされる。

(エ) 飲みこまれて

16

- ① 五万人の観衆を飲みこんだスタジアム。
- ② あめ玉を飲みこんでしまったくらいの驚き。
- ③ 説明されても、すんなりとは飲みこめない。
- ④ 言いかけた愚痴をぐっと飲みこむ。

(オ) したため

17

- ① 重くならぬ程度にしたためた昼食。
- ② お困りの様子に一筆したためました。
- ③ 明日お見えになるお客さまを迎えるしたため。
- ④ 念入りに準備したため事が都合よく運んだ。

問2

空欄

a

く

f

に当てはまる語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

18

- | | | | |
|----|----|----|----------------------|
| ④ | ③ | ② | ① |
| a | a | a | a |
| 卓絶 | 卓逸 | 逸脱 | 脱線 |
| b | b | b | b |
| 過程 | 経過 | 経緯 | 経由 |
| c | c | c | c |
| 照射 | 反射 | 反映 | 映写 |
| d | d | d | d |
| 携行 | 必携 | 必然 | 蓋然 <small>がい</small> |
| e | e | e | e |
| 叙述 | 後述 | 事後 | 事大 |
| f | f | f | f |
| 表敬 | 敬礼 | 洗礼 | 洗脳 |

問3 次の段落は、本文中の【Ⅰ】～【Ⅳ】の後に続く、いずれかから抜き出したものである。挿入する箇所として最も適当なもの、次の①～④のうちから一つ選べ。 19

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することが出来ませんのでご了承願います。

- ① 【Ⅰ】 ② 【Ⅱ】 ③ 【Ⅲ】 ④ 【Ⅳ】

問4 傍線部A「時間の謎」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

20

- ① 異境と地上とは違ったふう^にに時間が流れていることを見抜けず、竜宮城から故郷の浜辺に帰ってきた際にいただいた心のしこりを、なんとか打開したいがために、みやげにもらった玉手箱をあけてしまい、たちまち白髪のおじいさんになってしまった、浦島太郎のいたまじさ。
- ② 異境の竜宮城で乙姫さまから手厚いもてなしを受け、甘く蕩けるような歓楽の時を過ごしていたあいだも、地上ではあつという間に数百年が過ぎ去っていたのであり、ついには老衰というびんぼう籤を引かされてしまうという、浦島太郎の身にふりかかった皮肉な報い。
- ③ 四つの季節が同時に存在する、超時間的な場所である竜宮城から、故郷という出発点にもどることで時間旅行を終えたとたん、異境の時間と地上の時間のはざまに足をとられ、時間に翻弄されるしかなかった浦島太郎の、その心底に重く深くざわめくように揺れるとまどい。
- ④ 故郷の浜辺というゼロ地点にたどり着くやいなや、竜宮城への旅という空間的な移動はたんなる記憶にしかすぎなくなり、現実^{ぼうだい}に厳として残されたのは、龐大な月日の経過を示す時間的な移動だけであることを思い知らされた浦島太郎の、その胸に拭いがたくわだかまる虚無感。

問5 傍線部B「旅をめぐる事実と虚構の問題」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

21

- ① プルーストにとって、ヴェネツィアの町はつねにコバルトブルーの空とまばゆい光とにつつまれている五月の季節が「事実」だが、ついで過ぎたことのない、暗く凍てついた冬の季節は「虚構」であるということ。
- ② 浦島太郎にとって、竜宮城という異境に自分がわずか三年間しか滞在しなかったのは「事実」で、それが三百年も経過した事実だというのは「虚構」であるが、村人にとってはこの関係が逆転するということ。
- ③ 『ロビンソン・クルーソー』や『ガリバー旅行記』などの空想旅行小説が流行した当時の人たちにとって、それらの旅物語は「事実」だが、事実がしるされている旅行記『東方見聞録』はでたらめな「虚構」だということ。
- ④ シャトーブリアンやスタンダールがそれぞれの旅行記の中で展開しているさまざまな虚構は「事実」だが、旅をめぐるエクリチュールに自覚的とはいえない作家の手になる作品は「虚構」であるということ。

問6 傍線部C「語りはじめた浦島太郎」とあるが、その具体的なありさまとして最も適当なものを、次の①～④のうちから

一つ選べ。

22

- ① ひとたび異境を経験してしまったからには、故郷にもどつてからも自らの内部に、異境における時間感覚をずっと抱え込まざるをえず、いわば二つの世界の時間を内包しつづける者として、その二つの世界の時間差をなんとか折り合わせるために旅日記を書き直さねばならない。
- ② 異境における時間がたんなる経験や記憶ではなく、太い奔流のように、もう一つの現実として自らの内部にめぐつていることを自覚するからには、旅のさ中に書きしるした旅日記には、自らの窮地を救ってくれるはずの旅の真実がことごとくは追求されていないことを認めねばならない。
- ③ 異境への旅のあいだに書きしるした旅日記には、自らがいま痛切に感じていることが何一つとして表現されていないと思えるからには、旅のさ中でさまざまに遭遇した瑣末な事柄さまつについてさえも、できるだけ曖昧を排し、正確さをめざして、いくたびも書き直さねばならない。
- ④ 昔話の中で浦島太郎が、白髪しらがの三百歳のおじいさんとして故郷で生きつづける時間は、紛れもない現実のものであるが、それはとりもなおさず、語りつづけるほどに、自らの内部にさまざまな旅の時間が巧妙にいくえにも組み入れられていることに気づいた者のたどる末路といえるかもしれない。

問7

本文の内容に合致するものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

23

- ① 浦島伝説の主題は、はじめから時間の謎をめぐるものであった。物語に親近性を添えるために、動物の恩返しとか竜宮城というユートピアとかのモチーフが中世に出現し、近代を迎えてから物語としてのかたちが定着したが、それがかえって、永遠に解けない不自然な印象をもたらすことになってしまった。
- ② 浦島太郎が過ごした異境は、四季が共存する不思議な場所で、地上とはまったく異なるふうに時間が流れている。そのような超時間性は、昔話に限ったものではなく、現実の旅人の誰にとっても必ずや経験するものであり、たとえばブルーストの『失われた時を求めて』のヴェネツィアに関する記述は、そのことを如実に示している。
- ③ 事実と虚構とのたんなる対概念でもってヨーロッパの旅文学を評価することはできない。旅を記述する行為と記述された作品とにおいては、書き手の記憶と虚構とのあいだに明確な境界線を引けないからだ。たとえば、『東方見聞録』と『ガリバー旅行記』に対する受容のされかたの違いの意味をさぐることは決して無効とはいえない。
- ④ 異境と地上との二つの時間を内包している者は、たとえば浦島太郎が異境から持ち帰った玉手箱ともいうべき、かつて自らが旅のさ中に書きしるした旅日記の虚偽と誤謬ごびょうに失望する。二つの世界の時間差のおそろしさをすでに知っているがゆえに、その旅日記を改訂しつづけはするが、ついに完成にこぎつけることはできない。

Ⅲ

次の文章を読んで、後の問（問1～7）に答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することが
出来ませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することが
出来ませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することが
出来ませんのでご了承承願します。

(堀江敏幸「回送電車主義宣言」より)

(注) 蝟集Ⅱ時に多く集まること。

問1 空欄(X)を埋めるのに最も適当なものを、次の①～④から一つ選べ。 24

- ① 苦情の声
- ② 車の騒音
- ③ 電気の警鐘
- ④ 列車の警笛

問2 空欄(Y)を埋めるのに最も適当なものを、次の①～④から一つ選べ。 25

- ① 不可避
- ② 不可知
- ③ 不可視
- ④ 不可測

問3 傍線部A「回送車」とあるが、作者が位置づけている「回送電車」との相違として最も適切なものを、次の①～④から一つ選べ。 26

- ① 通常より安全を守る回送電車と安全を守らない回送車。
- ② 通行人に人気のない回送電車と人気のある回送車。
- ③ 通行人を止めておいて走る回送電車と通行人を止めない回送車。
- ④ 通常の運転とかわらない回送電車と通常より攻撃的な走行の回送車。

問4 傍線部B「回送電車の魅力」とあるが、作者の感じている魅力ではないものとして最も適当なものを、次の①～④から一つ選べ。27

- ① 部外秘のダイヤグラムに沿った隠密行動であること。
- ② 誰にも関心をもってもらえないまま決められた時間に走ること。
- ③ 敷かれたレールのうえを滑るという規制を受けていること。
- ④ 特急、準急、各駅電車より稀少性があること。

問5 傍線部C「《居候》的な身分」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～④から一つ選べ。28

- ① 作家として、あらゆるジャンルに挑戦し、各駅停車の回送電車のように、一つずつ一時的な居候を経て、そのジャンルでの成功を得ていく状態。
- ② 作家として、どのジャンルに分類されるわけでもないが、その都度、既成のジャンルに居候しながらも、いつも存在している状態。
- ③ 作家として、複数のジャンルを横断し、やがて暗中模索の中で一つ分野にたどりつく。それを理想として、今は居候のような活動を行っていく状態。
- ④ 作家として、よるべきジャンルがないものの、それをダンディズムとして、人に嫌われる居候のようにねばり強く、一人で生きていこうとする状態。

問6 傍線部D「回送電車こそ、永遠に見つからない逃避への道を探っている寂しい漂泊者の似姿なのかもしれない。」とあるが、「寂しい漂泊者」とは、作者自身と考えられる。では、回送電車と作者はどのような点で「似姿」なのか、その説明として、最も適当なものを、次の①～④から一つ選べ。

29

- ① 誰からも無視され続け、その存在価値が認められていない点。
- ② 孤独を愛し、群衆から離れているために、社会からの協力要請がない点。
- ③ いままで存在すら知られずに生きてきたために、晴れがましさに欠ける点。
- ④ すでに位置づけられている既成の枠には、おさまりきらないという点。

問7 本文の内容と合致しないものを、次の①～④から一つ選べ。

30

- ① 人々はおりた遮断機で前進をはばまれたうえに、身動きもできず怨みをいだいている。その神経をさかなでするのが、回送電車である。
- ② 客の目には、回送電車は全駅通過の権限を振りかざして、哀れな通勤客を無視するものけとしか映らない。
- ③ 作者は回送電車に同胞意識に似た感情を抱きつづけたが、それは奇妙ではなく、どの客も抱くものである。
- ④ 作者としては、自分の作品が書店において置き場のない中途半端な内容として一定の分類がなされていないことに、まんざら不快ではない。

